

連合佐賀「第 14 回定期大会」 相川会長あいさつ

こんにちは、連合佐賀第 14 回定期大会にご参集いただきました皆さん、大変ご苦労さまです。会長の相川です。

今日は、連合本部安永副事務局長、佐賀県農林水産商工本部から石橋正彦本部長、民主党から大串県連代表、社民党から松永副代表、連合議員懇談会から徳光会長、労福協から吉浦専務、また労働金庫から武重本部長、全労済から宮島本部長にご出席を頂きました。大変お忙しい中、ありがとうございます。

のちほどご紹介を行い激励のあいさつを頂ければと思います。

さて、今日の定期大会は、第 13 回定期大会で確認決定した 2 年間の運動方針について 2015 年度の 1 年間どう実践してきたか総括を行い、今後の 2 年間の課題を確認することが主要議題となります。

具体的には 1 号議案で提案を行いますので、私からはこれから 2 年間の運動を進めるにあたって、若干の思いを申し上げたいと思います。

まずは、現在の安倍政権のこの間の政策運営をみて私たちにとって危機的な状況だと思っています。今の政策運営は、どこを向いて誰のための政治を行っているか、生活者や働く者のことが二の次、三の次におかれ投資家や株価がどう反応するかを第一に考えた政策運営になっていると思います。

生活者や働く者を犠牲にした成長戦略なんて言語道断です。また、少子高齢化・人口減少、そして痛んだ雇用社会などの立て直しをどうするのか、直面する大きな課題についての対策が見えません。そして何よりも危ないのが、「安全保障関連法案」や「労働者派遣法改悪」などを始めとした重要な法案が、国民・生活者の耳を傾けず、国会での審議も不十分なまま、数の力で強引に通してしまいました。これは日本の立憲主義・民主主義を根底から揺るがす暴挙と言わざるを得ません。

私たちは、これまで、労働者保護ルール改悪阻止に向けた全国アピールリーレや集会など、様々な取り組みを行ってきました。この間のご協力に感謝を申し上げますとともに、これからも闘いは続きます、今後も力を一つにして取り組みを進めて行くことに対しご協力をお願いしておきます。

次に方針に関わることに触れたいと思います。

一昨年の大会で会長に就任した際のあいさつの中で「3つの重点課題」に力を入れたいと申し上げました。ひとつに「組織拡大」ふたつに「組織強化」、そして三つに「社会的アピールの強化」です。その取り組みについては、経過報告の中でご報告をすることとし、これから 2 年間の新たな課題について問題提起をいたします。

1点目は前回に引き続き「組織拡大」です。この課題は2020年4万人連合佐賀という大きな目標を掲げています。

今日の大会では、2つの新しい仲間を紹介します。大きな拍手で歓迎の意を表していただくことをお願いします。第13回大会以降、4つの組合を仲間に迎え、組合員数にして282名の拡大になっています、構成組織の皆さんの組織拡大の努力の成果であり感謝を申し上げます。

しかし、退職等での減少傾向を上回る拡大に至っていないのが現状であります。さらに、組織拡大の取り組みに力を入れたいと思います。連合全体としても、本部の組織化専任チームと構成組織、地方連合会の三位一体となった活動の展開で、少しずつ成果も出ています。佐賀においても三位一体の取り組みを強力に進めて参りたいと思います。

そのためには、情報が必要です、連合佐賀全ての組合員がアンテナを高くして、情報を集め、そしてその情報を共有して組織拡大につなげていきたいと思ます。

次に2点目です、現在の政治状況をつくったのは私たちにも責任があります。私たちの政治活動の結果が今の状況を作り上げたと思います。佐賀県でのこれまでの自治体選挙はそれなりの結果が残せたと思っていますが、勢力はまだまだ少なく候補者の選出について努力が必要と痛感しています。

来年7月には「参議院議員選挙」が実施されます。今の政治情勢を転換するためにもこの選挙は重要なものになります。政治は私たちの働き方やくらしと直結しています。たとえ政治に無関心でも、私たちは政治と無関係にはなりえません。そのためにも私たちの代表である比例区の連合組織内予定候補12名の勝利に向けた取り組みを進めなければなりません。そして強引な政治に杭を打ち込まなければなりません。

参議院選挙の比例代表の取り組みは、候補者の名前を書かなければなりません。構成組織の組織内候補の名前を書いてもらうわけですが、これがなかなか浸透するのに苦労をします。

そして投票行動に如何に繋げるかです。連合の「政治アンケート」の集約結果をみても、まだまだ投票に行かなかった人たちが組合員のなかの20%弱います。そして、若年者・女性が特に多いという結果です。投票に行った人達の回答を見ると、組合役員からの声掛けや知人友人からの声掛けがそのきっかけになっています。

連合佐賀の責任として、今後も「投票に行こう！」の運動は更に強化しなければならぬし、若年層や女性に対しての働きかけを強めなければ と考えています。

そこで、皆さんにお願いします。必ず投票には行くことと、周りの人に一言、声をかけてください。それが大きな力になると思います。そして、12名の組織内候補の勝利へとつながります。ぜひお願いします。

次に3点目です。「地協活動の強化」を取組みます。

地協の大きな役割の一つである「地域に顔の見える労働運動」の解釈を私自身間違っ理解をしていました。それは、労働組合の中に閉じこもった狭い範囲での運動じゃなく、外に向かった運動を展開して行こう、未組織の労働者や地域の人達へのアピールなど、連合運動を多くの人達に知ってもらおう、その取り組みだと理解をしていました。もちろんこれらの取り組みはこれからも重要な取り組みだと思っています。続けて行かなければなりません。

そしてもう一つ大きな意味がありました。それは今年の7月に開催された連合本部主催のサマートップセミナーで気づかされたことであります。あわせて、これまで実施されてきた古賀会長とニューリーダーの直接対話の活動報告書を見たときであります。もう一つの目的、それは連合内部での顔の見える取り組みです。

連合構成組織の組合員の中には「連合」の名前すら知らない組合員がいることの現実でした。そして連合の名前は聞いたことがあるが「何をやっているのかわからない」という声があったのです。驚きました。

構成組織の役員の方々は昼夜を問わず活動を進められていることは十二分把握していますし、感謝もしています。しかし、職場の隅々まで連合運動が浸透しているかということ「そうではない、不十分だ」ということであります。つまり私たちの思いが組合員一人一人に届いていないということです。

このことは大いに反省をしなければなりませんし、対策を取らなければなりません。今まで「連合組織と構成組織」つまり「組織と組織の関係」で取り組みを進めてきたのではないかということです。その考えをあらため、今後は「組織と組織の関係」と「人と人の関係」にしていかなければと思っています。その取り組みの最先端で進めて行くのが地協の役割、地協しかできない取り組みだと思っています。職場にいちばん近い連合組織は地域協議会だからです。

この取り組みを進めるには、多くの汗をかかなければなりません。多くの組合員は連合役員を見ています。役員そのものが連合なのです。その自覚をもって「一人ひとりの声を聴く」その努力が必要だと思っています。その努力を進めたいと思います。

最後に、時間の関係で触れられなかった重要な課題もありますが、議論の中で肉付けしていただくことをお願いしまして、冒頭のあいさつとします。